

## ■ 第90回調査研究方法検討会かわら版 ■

去る 2024 年 12 月 8 日（日）、JR 博多シティ会議室とオンライン会議システム Zoom のハイブリッドにて、第 90 回調査研究方法検討会が開催されました。

検討会の報告要旨は、各演者の方へお願いしております。ご発表いただいた研究の概要とともに、検討会で議論された内容も含めご報告いたします。

「医師の診察は子どもの咳嗽の経過に影響するのか」

西村龍夫

小児が急性咳嗽で受診した場合、かかりつけ医で説明し、納得が得られた方がその後の咳嗽が軽減するのではないかと仮説を立て、診察前後の咳嗽の強さと説明への理解や共感性などを点数化し、相関を見る調査を考えてみた。診察後に、保護者の診察医への信頼、説明の分かりやすさ、なぜ咳が出るのか理解できたか、保護者の不安をリッカートスケールで点数化し、合計点を診察への評価とした。保護者による診察前と翌日の咳嗽の評価の差を咳の改善度とした。プレ調査として自院で 20 例の調査を行い、17 例から回答を得た。結果は医師の診察への評価が高いほど、咳嗽の改善度も大きい傾向にあった。検討会では対象疾患やデータの取り方に関して、多くの提案を頂いた。今後は倫理審査から共同研究を募り、多施設共同で研究を進めたいと考えている。

「乳児期の「生理的排便回数の減少」の原因と保護者の意識調査」

富本和彦

生後 6 か月未満で「便が出ない」ことを心配して受診する保護者は多い。特に母乳栄養児では「生理的排便回数の減少」がみられることも多く、保護者を困惑させる。しかし母乳はその組成上軟便となりやすく、「便秘」につながる硬便をきたすものは 1%に過ぎない。本邦では SNS やインターネットの情報などから、綿棒を用いた肛門刺激が行われていることも多いが、生理的な現象に対しては不要な侵襲処置と考えられる。今回は、乳児期早期の排便障害に関する保護者の意識や対応実態を調査し、排便障害の原因についても検討する。

議論では、乳児期の便秘は補完食の影響があるため補完食開始前のケースに限定すべきといった意見や、綿棒刺激の功罪についてさらに掘り下げるべきといったアドバイスがあった。また、乳児期早期の排便障害は将来の便秘に関連するか？といった CQ も挙げられたが、将来の検討課題とな

る。

「保護者がもっている小児便秘症への誤解をアンケート調査で明らかにする」

塚原央之

便秘症の子どもをもつ保護者は、便秘症についての知識が不十分である可能性がある。例えば、硬くても排便できていればよい、内服薬・浣腸には依存性がある、内服より食事療法や水分摂取が優先、などである。この研究の目的は、適切な小児便秘症の患者教育のため、保護者がどのような知識を持っているか、アンケートを行うことである。

10名の保護者に対して先行アンケートを行ったので報告する。

発表に対し、以下のようなコメントが寄せられた

#### 対象の設定について

- ・先行研究の対象は便秘では「ない」保護者に限定していたが、限定しなくてもよい。むしろ、子供が便秘症であるにも関わらず、十分な知識を持っていない保護者が明らかになる可能性がある。
- ・母親が便秘症だと、子どもの便秘についても病識がない可能性がある。親が便秘症かどうか、検討すべき。

#### アンケート項目について

- ・治療について、乳製品も入れてはどうか。過度に期待している保護者が一定数いる。
- ・ソイリングの項目は、無くしたほうが良い（重症な一部のケースにしか見られず、設問が分かりにくいため）

#### サンプルサイズについて

- ・2群間での比較をメインにしないのであれば、Nの数は計算により設定しなくてよい
- ・外来小児科学会に参加している多施設でやるべき

「学校検診にスコリオメータは有用かの検証」

橋本裕美

市の学校検診において脱衣を拒否する等で、運動器健診がスムーズにできないことへの対策として、体操服着用の上からスコリオメータを使用したスクリーニング法を考えた。一部の学校医で次年度に試験的に実施し、服をめくるなどの以前の方法で実施する学校と検出精度やスムーズな検診が可能であったかなどを比較検討。またスコリオメータを使用する学校医において、過去の検診との比較検討。使用した学校医と養護教員に対するアンケート調査を予定している。検討会において、

家庭での事前の側弯チェック結果も併せて調べることや、学会員に対して運動器健診をどうしているかのアンケートを取るなどのアイデアを頂いた。

連絡先：〒820-0040 福岡県飯塚市吉原町 537 いいづかこども診療所 牟田広実  
FAX: 0948-80-5632, E-mail: qze05346@nifty.com